

公共施設計画の設計者選定における市民参加システムの実態
—新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技を事例として—

正会員 ○高橋 知里*
同 岡崎 篤行**

市民参加 設計者選定 公共施設
設計競技 新潟駅

1 研究の背景と目的

近年、公共施設計画への市民参加が活発に行われている。その多くは構想段階と設計段階での参加であり¹⁾、設計者選定においても参加をどのように行うかが重要となる。しかし、構想段階・設計プロセスにおいて、その実態を明らかにした研究²⁾は多いものの、設計者選定に焦点を当てたものは少なく、その実態は明らかではない。

本研究では、新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技(以下、新潟駅コンペ)を事例とし、①運営体制と参加の経緯を明らかにし、②参加の手続きと計画内容の視点から設計者選定段階における参加システムの実態を明らかにし、③今後の課題を検証することを目的とする。

2 対象事例の概要と調査方法

新潟駅コンペの概要を表1に示す。県と市は、新潟駅周辺整備事業の中で、駅舎を含む駅前広場の優れた基本計画を求めるため、JRの協力を得ながら、市民参加を取り入れた一般公募による設計競技を実施した。

本研究では、市やWS等の資料による文献調査、関係者へのヒアリング調査、市民の満足・不満要素の調査、審査委員による最優秀案の計画内容の評価を調査した。

3 設計者選定段階における参加組織の構成と運営体制

表2に参加組織の役割と構成を、図1に設計者選定段階の運営体制を示す。主な検討組織として、関係機関からなり新潟駅コンペを企画・運営する企画会議、市民からなる窓口委員会、専門家と関係機関からなる審査委員会が設置された。市民参加活動を行っているNPO法人まちづくり学校が市の委託を受け窓口委員会の設立・運営を行った。窓口委員会は市民意見を募集し、応募要項別冊の作成や審査委員会への要望書の提出など精力的な活動を行い、市民と主催者側をつなぐ窓口として機能した。

4 市民参加の経緯

参加の経緯を図2に示す。構想段階では、まず基本構想が提示され、それをたたき台として、懇談会との意見交換、地元説明会等が実施された。また、有志市民による実行委員会と市が共催で市民意見交換会を開催した。

設計者選定段階では、3段階で参加の場が確保された。まず、第一段階作品提案前には、窓口委員会が市民意見を様々な方法で集め、公募市民によるWSを行い、応募要項別冊「市民の想い」を作成した。第二段階作品提案前

表1 新潟駅コンペの概要

主催	新潟県、新潟市	競技対象	駅舎と駅前広場の基本計画
協力	東日本旅客鉄道株式会社	審査委員長	大熊孝(新潟大学教授)
選定方式	設計競技方式(公募)	応募作品数	125点
実施期間	2002/3/15~2002/12/15	最優秀賞	堀越英嗣(アーキテクトファイブ)

表2 設計者選定段階における参加組織の役割と構成

組織名	目的・役割	構成		
		行	協	専
新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技企画会議	新潟駅コンペ事務局	6	2	-
アドバイザーチーム	審査委員会事務局	-	-	3
企画会議への助言、協力、提案	企画会議への助言、協力、提案	-	-	3
新潟駅駅舎・駅前広場検討事項の審議・答申	検討事項の審議・答申	3	1	6
計画提案競技審査委員会	応募作品の審査	-	-	6
NPO法人まちづくり学校	窓口委員会事務局	-	-	0
新潟駅コンペ市民窓口委員会	市民が主体となった市民参加活動の企画・実施、コンペへの市民意向の反映	-	-	6

※行…行政、協…協力機関、専…有識者、建築家等の専門家、市…市民

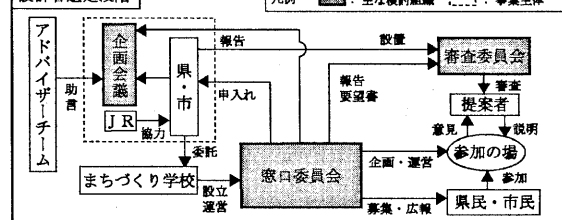


図1 設計者選定段階における運営体制

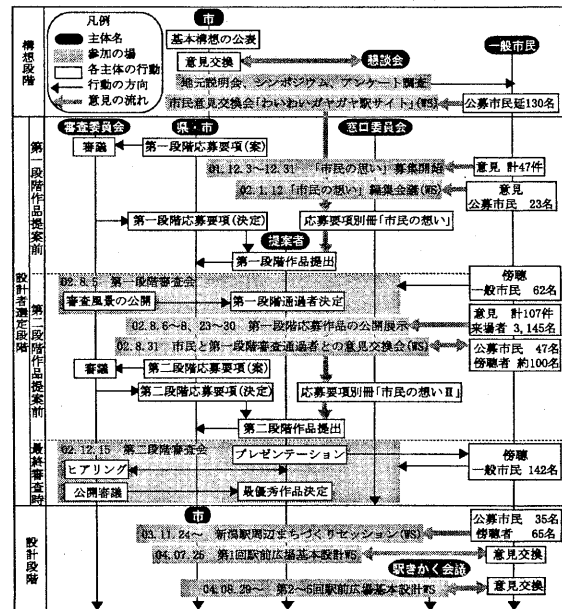


図2 参加の経緯

A Participation System in the Designer Selection of a Public Facility
-A Case of Niigata Station and Station Square Competition-

TAKAHASHI Chisato, OKAZAKI Atsuyuki

には、一次審査を公開で行い、全作品の公開展示、市民と一次審査通過者との意見交換会が行われ、集まった意見を応募要項別冊「市民の想いⅡ」に編集した。また、応募者には提案図書の中で「市民の想い」への対応についての説明を求めた。これらの「市民の想い」は審査委員にも送付され、審査では市民との対話能力が重視された。最終審査時には提案者のプレゼンテーションや審査委員会によるヒアリングも含め、全面公開された。

設計段階では、新たに公募市民による「駅さか会議」を立ち上げ、設計者との対話を繰り返しながら駅前広場の基本設計WSを行った。

5 設計者選定における参加システムの実態 (表3)

WS後のアンケート、要項別冊の意見、関係者へのヒアリング等から手続きに対する市民の満足と不満を、審査会の議事録から計画内容の評価の分析を行った。

5-1 手続きの実態

(1) プロセスの実態

窓口委員会の強い要望により最終審査まで全てが公開され、事業の透明性が確保された。また、応募要項作成の段階から参加を取り入れ、作品提案前に意見を伝えることができたが、基本構想や前提条件が決定する前に参加する仕組みがなかった。提案図書の中で別冊への対応を説明することで、意見への対応を作品を通して確認することができたが、審査委員が別冊にどの程度の荷重を置かかは不明確であった。すでに決まっていることが整理されて説明されておらず、行政による前提条件の説明不足や早い段階での公開が足りなかったと考えられる。

(2) プログラムの実態

編集会議、意見交換会ともにWS形式が用いられ、いくつかのグループにわかれて討論が行われた。各テーブルにはファシリテーターが配置された。議論時間が短く、

十分に議論できなかったという意見が多く見られ、限られた時間を有効に使い議論することが求められる。

(3) 主体や組織の参加形態の実態

参加の場には多様な市民が参加したが、協力機関であるJRは一般市民が参加する場に参加していなかった。それが市民の不満でもあり、前提条件の説明不足、それによる事業実現への不安を招いた。これらは、事業主体同士の連携が不十分であったことが要因だと考えられる。

5-2 計画内容の実態

最終審査においては、わかりやすい点、将来期待できる点等が、評価されたが、「新潟らしさ」が欠けているという評価が目立った。今後市民との対話の中で「新潟らしさ」をつくっていくことが求められている。

6 結論

(1) 企画会議、審査委員会、窓口委員会がそれぞれ独立して設置され、市民からなる窓口委員会が市民と行政をつなぐ機能を果たした。

(2) 設計者選定段階では第一段階作品提案前、第二段階作品提案前、最終審査時の3段階で参加の場が確保された。

(3) 参加の手続きにおいて、事業主体の一体的な参加がなかったために、市民への説明不足、前提条件への不満、計画の実現への不安を招いた。計画内容はわかりやすく、柔軟性があったが、「新潟らしさ」に欠ける案であった。

(4) 今後の課題は、事業主体が連携をとり、市民が参加する場へ参加し、市民と対話する必要がある。また、市民との対話の中で、「新潟らしさ」を創出する必要がある。

【参考文献】

- 志村秀明：「参加型公共施設の現状と課題」、日本建築学会編、まちづくり教科書第3巻 参加による公共施設のデザイン、丸善、2004.3、pp.76-84
- 龍 元他：「公共文化施設の構想から設計に至る過程における市民参加による意思決定の仕組みに関する研究—3つの文化施設プロジェクトを事例として—」日本建築学会計画系論文集、No.552、pp.117-124、2002.2

表3 参加者の参加システムに対する満足要素と不満要素

	市民参加に求められる要素	実態		要因
		満足要素	不満要素	
プロセス	前提条件の明確化	-	・前提条件自体 ・前提条件が不明確	・前提条件決定前に参加の仕組みがなかった ・事業主体の一体的参加がないことによる説明不足
	物事が決まる前からの参加	・応募要項作成の段階からの参加	・基本構想・前提条件が決定する前に参加がない	・基本構想・前提条件策定前に参加する仕組みがなかった
	十分な参加の機会	・参加の場が与えられた	・議論の場の不足	・窓口委員会による参加の場の企画・実施
	意見への対応	・意見に対して返事がある	・審査委員の別冊に対する荷重が不明確	・提案図書の中で別冊への対応の説明を求めた ・審査委員と市民が意見交換する場がなかった
	プロセスの公開	・審査過程をすべて公開した	・一次通過作品の通過理由が不明確	・窓口委員会の働きによって最終審査まで公開された
	事業の実現	-	・事業が実現するかが不明	・駅舎の設計が担保されていない、JRの不参加
	議論内容の充実	・充実した議論ができた	・議論テーマとその量	
	十分な議論時間	・進行がスムーズ	・議論時間が短い	
	十分な発言の機会	・言いたいことが言えた ・いろいろな意見が聞けた	・あまり発言できなかった	・テーブルファシリテーターの存在
	オープンな雰囲気	・WSが楽しかった	・気軽に参加できる雰囲気・一体感が必要	
参加形態	参加者の多様性	・参加者が多様である	・参加者に偏りがある、若い人が少ない	・市民の関心の低さ
	主体同士の連携	・窓口委員会の存在	・事業主体の参加がない	・事業主体同士の連携が不十分である
内容	的確な情報提供	-	・一般市民へのPRが少ない	・ホームページ、市報、新聞などによって情報提供したが、市民の関心はそれほど変わらなかった
	質の高い設計	・将来の多様な需要にも対応可能 ・シンプルでわかりやすい	・「新潟らしさ」に欠ける	

* 新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程

** 新潟大学工学部建設学科 助教授・工博

* Graduate student, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.

** Assoc.Prof., Dept. of Civil and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr.Eng.